

立春から88日目にあたる「八十八夜」は5月の季語です。「米」という字を分解すると「八十八」になるため八十八夜は豊作を願う縁起の日とされていますが、この日に新茶を飲むと長寿になれるという噂もあります。新茶一杯で不老不死になれば安いものですが、まずは新茶を飲んで5月の眠気を吹き飛ばしましょうか。

## シーズン開幕！



花の盛りもあわただしく去り、いよいよ春も深まってまいりました。爽やかな南風の暖かさに心も浮き立つ今日この頃です。おでかけやレジャーにもってこいのこの時期を存分に楽しみましょう。

さて、我らがカープ。今年のカープは、良い部分が確かに存在するのに、それが勝敗に結びつかず、むしろ“光があるからこそ影が濃く見える”という、ファンの心を最も揺さぶるシーズンになっている。投手陣は森下・床田を中心にリーグ屈指の安定感を誇り、中継ぎも森浦やハーンらが厳しい場면을粘り強く抑え、守備と走塁も全体として質が高い。細かい部分の野球はしっかりしており、若手の中には打席内容が良くなってきた選手もいて、未来につながる芽も確かに見える。こうした要素は本来ならチームを押し上げる力になるはずで、ファンとしては希望を抱ける材料でもある。



しかし、その良さが勝敗に反映されないのが今季最大の苦しさで、打線はチャンスでの内容が淡白で、相手投手にプレッシャーを与えられず、1点を取りに行く工夫も執念も見えない。投手陣が7回1失点で降板しても勝てず、1点差負けが続き、中継ぎは常に薄氷のリードを守られ疲労が蓄積し、努力が数字にも評価にも結び付かない。投手陣の奮闘がむしろ悲壮感を帯び、チーム全体のバランスの悪さを際立たせてしまっている。守備や走塁の良さ、若手の成長といった“光”があるだけに、打線の淡白さがより強烈に浮き彫りになり、ファンの心を削り続けている。

さらに追い打ちをかけるのが、FA権取得選手の多さだ。リーグ屈指の投手陣を抱えながら勝ち星が伸びず、チームとしての上昇気流も感じられない現状は、選手の心を揺らすには十分すぎる。「このままでキャリアを終えていいのか」と考える選手が出て不思議ではなく、勝てない現在がそのまま未来の戦力不安につながっている。ただし、カープには育成力やチーム文化という魅力があり、条件より“広島で野球を続けたい”と残留を選ぶ選手が多いのも事実で、この点は確かな希望でもある。だからこそ、今の戦いぶりが選手の心にどう映っているのか、ファンとしては気が気でない。

総じて、今のカープは、良いところがあるのに勝てないというギャップが、ファンの心を最も削るシーズンになっている。投手陣の奮闘、守備走塁の安定、若手の成長という光がある一方で、打線の淡白さとFA流出の不安という影が重くのしかかり、期待と不安が常に交錯する状態が続いている。

とにもかくにも点の取り方である。まずは先制点を取る確率を上げ、打線の形を作ること。一点をもぎ取る執念を取り戻し、投手陣の負担を減らす。これができれば勝率は確実に上がる。

シーズンは始まったばかり。頑張れカープ！！

エルフォルクはあなたを そしてカープを 全力応援致します！

裏面もご覧ください。